

1、現状

2019年7月の参議院選挙では、市民と野党の共闘によって、自民党の単独過半数を阻止し、改憲勢力の3分の2を切り崩すことが出来ました。

9月に第四次安倍内閣が発足しましたが、日本会議・神道政治連盟を中心とする極右改憲原発推進腐敗隠蔽内閣であり、戦後最悪の内閣だと思えます。

安部首相は所信表明で、あくまで改憲をめざす姿勢を変えないことなく、改憲への論議をうながし、野党を巻き込みながら改憲発議へ突き進もうとしています。道議会でも自民党会派が公明党を巻き込み改憲論議促進の決議を強行採決しました。

日韓の関係は、安部内閣の歴史を直視しない姿勢によって悪化の状態がすすんでいますし、北朝鮮との交渉も見通しがまったく立っていません。ロシアとの北方領土交渉は行き詰まったままです。

相変わらずのトランプ米国にべったりの隷属姿勢によって、高額の武器を押し売りされ、さらには自衛隊の中東への派遣がすすめられようとしています。

9月、共産党は「連合政権構想」で、「れいわ新選組」と協議し、市民連合との13項目、消費税問題などでの合意がなされました。10月には、立憲民主党と国民民主党、社会保障、社民党、無所属会派での共同会派が結成されました。

内政・外交で八方ふさがりの安部自公政権に対して、立憲野党どうしの連携・連帯と、市民との共闘体制の確立によって闘うことが求められています。

2、これまでの取組みと到達点

市民の風・北海道は、憲法改悪の阻止、安保法制の廃止、民主主義と立憲主義の回復のために、市民が政治に参加し、市民が望む政治を実現することをめざしてきました。そのために、北海道における立憲野党間の橋渡し・接着剤・間接ギアとなって、市民と野党の共闘による統一候補の実現と議席獲得をめざしてきました。

2016年の衆議院北海道五区補欠選挙において、市民と野党の共闘による統一候補として池田まきさんを擁立し、北海道における歴史的な市民と野党の共闘体制を形成して闘いました。同年の参議院議員選挙では、北海道での立憲野党三名の立候補者を推薦し、民進党の二名が議席を獲得しました。

2017年の衆議院議員選挙では、民進党の希望の党への合流騒動を乗り越え、北海道における市民と野党の共闘体制を確立し、北海道12の選挙区全てで野党統一候補を実現して、立憲民主党の8名が議席を獲得しました。

2019年の北海道知事選挙では、石川ともひろさんを統一候補として、市民と野党の共闘体制を形成して闘いましたが、当選はかないませんでした。同年の参議院議員選挙では、北海道の立憲野党三名の立候補者を推薦しましたが、立憲民主党の一議席に終わりました。定数三議席に三名を擁立したことの可否や今後の衆議院比例区での野党どうしのすみわけなどの課題が残りました。

この4年間、市民の風・北海道は、北海道における立憲野党間の橋渡し・接着剤・間接ギアとして共闘関係をつくり、国政選挙、知事選挙において市民と野党による統一候補の実現とその勝利のために、それなりの役割を果し、成果をあげてきました。そのために市民や市民団体、各立憲野党から、その役割を期待されるようになり、さまざまな立場や考え方の市民が、市民の風・北海道という共通の目的と運動のもとに集い、一緒に論議し、行動してきました。その運動は、全道各地にも広がっていき、現在11の選挙区において「市民の会」的な組織や動きが形成されています。市民の風の活動から、様々な行動や活動に取り組むグループが現れ、それぞれ独自に特色ある活動を展開しています。多くの市民が、いろんなかたちで「選挙」や「政治」に積極的に関心を持ち、具体的な活動に関わるようになってきています。

市民の風・北海道として、これまでの取組みを総括し、活動の目的や方向性をいま一度しっかりと再確認し、各方面からのさまざまな期待にどのように応えていくのか、どのような活動に取り組んでいくのかを見定めていく必要があると思えます。

3、今後の活動方針

(1) 北海道における市民と野党の共闘づくりと統一候補による議席獲得のために力を尽くします。

- ・略称として「市民の風・北海道」を掲げ、あくまで「市民団体」（政治団体ではなく）として「市民による政治参加」と「市民が望む政治の実現」を主たる目的とした活動に取り組んでいきます。
- ・目的を共有する政党、労働団体、市民団体などと連携・協力し運動の輪をさらに広げていき、北海道における運動のプラットフォームづくりに取り組んでいきます。
- ・北海道における市民と立憲野党間の橋渡し・接着剤・間接ギアとなって、共闘による統一候補の実現と議席獲得をめざしていくことは、政党をはじめとする各方面からも期待されているとことであり、ひきつづきその役目を果たしていきたいと思えます。
- ・つぎの衆議院議員選挙では、市民と野党の共闘によって安倍政権を打倒し、政権交代をめざす闘いを視野に入れていかなければなりません。北海道では、現議席に上乘せすることをめざし、そのためには選挙区・比例区で、どのような共闘や取組みが可能であるか考えていきたいと思えます。
- ・市民と野党の共闘による統一候補者の決定についても、政党側からの一方的な決め方ではなく、出来る限り各区の市民の会や市民の風との連携・協議の中で決定が進められるよう求めています。
- ・北海道の市民と立憲野党との連携・連絡を円滑にすすめるために、各党の幹事長・事務局長レベルとの定期的な協議の場（会議）の開催をよびかけます。
- ・北海道の市民と立憲野党との意見交換や情報提供のために、市民と各党役員・議員との懇談会の定期的開催を呼びかけます。
- ・全道各地で市民と野党の共闘をつくるために活動している各市区市民の会との連携・連絡のために、定期的な連絡・協議の場（会議）の開催をよびかけます。

(2) 市民の政治への参加を呼びかけ、政治や選挙への関心を高める取組みをすすめます。

- ・ここ数年の国政選挙の低投票率と政治に対する無力感・無関心の広がりに対して、市民による政治参加をよびかけ、投票率の向上をうながす活動に取り組みます。
- ・主権者が主体的に判断するために必要な情報を、様々な活動やルートで提供していきます。
- ・具体的には、市民の選挙への関心や投票率を高める取組みとして「選挙割引」のようなアイデアを生かすなど、創意工夫を重ねて実行していきます。
- ・政治や選挙に関しての定期的な学習会・市民集会の企画・開催に取り組めます。
- ・市民の風の活動から生まれた様々な行動や活動について、今後とも市民の風の目的に沿ったものであるなら積極的に連携・参加して支援・応援していきます。
- ・この間取り組んできた「安倍改憲を許さないための共同をつくる円卓会議」について、今後の安倍改憲の策動を見ながら、より広い共同の輪をつくり運動を活性化するために、円卓会議の世話人会において今後の取組みかたについて協議をすすめていきます。
- ・事務局体制の充実をはかるために「事務局サポーター」を増員し、可能な範囲で事務局会議に参加して協議に加わってもらいます。
- ・「会員」については、引き続き会員になる意志があり会費を納入した人としします。「総会」だけでなく「会員集会」などを開催して、意見交流や実践交流をはかります。
- ・以上の活動方針を明確にするために規約の一部を改正します。
- ・現在のメーリングリストのサービスが11月いっぱい終了するのを契機に、会員や支援者への情報伝達や、情報交換・意見交換の方法について検討していきます。
- ・これからの「市民の風・北海道」は、①言い出しっぺからやる、一人でもやる②参加する団体・個人の違いを認め合い誹謗中傷はしない、③「ゆるやかに・しなやかに・したたかに」そして「楽しく・面白く・愉快地に」、でいきたいと思えます。

以上